

宇治市観光振興計画推進委員会 議事録

日時 令和5年9月1日(金) 午前10時～午後0時

場所 うじ安心館 3階ホール

出席者

宇治市観光振興計画推進委員会

委員長 坂上 英彦

委員 藤原 直樹

〃 片山 明久

〃 中村 藤吉

〃 山仲 修矢

〃 脇 博一

〃 四辻 清美

〃 神居 文彰

〃 酒井 勇治

〃 西村 嘉高

オブザーバー 多田 重光

事務局

宇治市長 松村 淳子

産業観光部 部長 脇坂 英昭

産業観光部 副部長 前田 聖子

産業観光部 観光振興課 課長 木田 陽子

観光振興課 観光企画係 係長 大原 豪

観光振興課 観光企画係 主任 西井 利治

観光振興課 観光企画係 主事 田島 佳奈

関係課

産業観光部 農林茶業課 課長 齋藤 政也

産業観光部 産業観光課 課長 堀江 信光

産業観光部 文化スポーツ課 課長 岡部 均

危機管理室 室長 馬場 隆

建設部 道路建設課 課長 丸岡 陽一

都市整備部 都市計画課 課長 中本 洋

都市整備部 歴史まちづくり推進課 課長 谷澤 潔

都市整備部 交通政策課 課長 倉辻 崇秀

宇治市教育委員会 教育支援センター 学校教育課 課長 岡野 健太郎

宇治市教育委員会 教育支援センター 源氏物語ミュージアム 館長 家塚 智子

資料

- ・宇治市観光振興計画推進委員会 次第
- ・宇治市観光振興計画推進委員会 委員名簿
- ・宇治市観光振興計画推進委員会設置要項 資料1
- ・宇治市観光振興計画推進委員会の会議の公開に関する要項 資料2
- ・第2期宇治市観光振興計画 前期アクションプラン総括資料(案) 資料3
- ・紫式部ゆかりのまち魅力発信プロジェクト 取組内容 資料4
- ・ワーキンググループについて 資料5

1. 開会

2. 委員の委嘱

松村市長より委嘱状交付

3. 開会あいさつ

松村市長より開会あいさつ

4. 委員紹介等

委員自己紹介、事務局、関係者紹介

5. 委員会互選及び副委員長指名

委員長は坂上委員、副委員長は中村委員に決定。

6. 委員長あいさつ

坂上委員長による挨拶

7. 委員会の公開について

事務局より資料2について説明

委員一同、委員会の公開について異議なし

8. 議事

- ・第2期宇治市観光振興計画の進捗状況報告

事務局より資料3 資料4について説明

委員長：

事務局の説明について質問等はあるか。

脇委員：

今回は「光る君へ」が大きな要素を占めている。

鎌倉殿の時に宇治川の戦いは一瞬であった。

今年も7月30日に伊賀越えの放映があり、京田辺でパブリックビューイングをしてテレビと一緒に見ていたが、信楽のほうから逃げたということで、全然南山城以外のところは、ほとんど映らず非常に残念であった。

あくまでもNHKの大河ドラマは基本的にはドラマなので、沢山出る場合もあればそうでない場合もある。悪い場合のことも考えて動く必要もある。

それともう一つは万博の準備。開催は再来年ではあるが、実際にはもう進めておかないと駄目。もちろん会場もまだまだ準備が出来てないが、2年後に開催されるので、お客様を何とか宇治にお連れする仕掛けをつくっていかないといけない。

事務局：

まず、大河ドラマ「光る君へ」に関して、ドラマの内容やストーリーがどうなるかわからないため、宇治がどのように関わってくるかも分からない。

ただドラマがどうであっても、宇治市は平安時代の源氏物語ゆかりの地であるという今までもしていた取組を中心に、ドラマのストーリーに影響されることなく、進めていかなければいけないと考えている。

一過性に終わらないというところも大事であるため、ドラマが終わって以降も引き続き、魅力を発信できるように、プロジェクトチームとプラットフォーム会議等での、取組を進めていきたいと考えている。

万博は宇治市だけではなく、京都府やDMOなど、地域が一体となって万博に向けて取組むことが必要であると考えている。淀川舟運活性化協議会に宇治市も参加しており、2025年の関西万博に向けて沿線の自治体が一体となった水辺のにぎわいづくりを進めていきたいと考えている。

脇委員：

その通りだと思う。ただ、協調も大事ではあるが、場合によって宇治市だけ尖ってもよいと思っている。

全体を待っていたら終わっていたというのが1番まずい。頑張ってもらいたいと思っている。

委員長：

京阪は万博で何人くらい運ぶ予定をしているか、情報があれば教えてほしい。

酒井委員：

当社の対応として、中之島にプレミアムカーを新たに停め、万博会場と中之島をしっかり結ぶ取組をしている。さらに、万博会場から淀川を上り伏見まで。そこから上流は、本来船で行けるとよいが、今はまだ検討されている途中。

万博の説明会で話を聞く機会があったが、何人来るかだけではなく、誰に対してPRするかという要素も非常に大事であると言っていた。本来は万博で、いわゆる商売の話を

してはいけないらしいが、現実的にはドバイなどの国にヨーロッパの方々がB to Bの対応をしていると聞く。

要は万博に目掛けて、世界中から観光の関係者あるいは観光に類する商売をやっている方が来る。そういう方々を万博会場で捕まえ、どう次につなぐか。例えば、こちらから行かなくてもわざわざ世界中から、そういった方々が来られるので、そこに向けて、そのタイミングで、しかるべき人が来るのであれば、宇治に来ていただいて、体験していただくあるいは宇治茶をPRする。

そういったB to Bの観点は非常に効率がいい。現地に来ていただくチャンスだということでもあるので、そういう観点が非常に大事ではないか。

あと、天ヶ瀬ダムまでの周遊回遊性を高める中で、当社と連携している業者から聞いた話によると、携帯の電波が入りにくく、今の状況だとポイントの設置や管理が出来ないという話が出ていた。

携帯の電波の状況というのは、これから観光エリアとしてやっていく上で、それが事実なのであれば、対応が必要ではないかと思う。

委員長：

万博にいつどのようなVIPが来るのか、京阪を通して情報を得るようなことは可能か。

酒井委員：

当社も万博協会には今言っている。どちらかというところ、その辺りは行政や報道機関のほうでネットワークはあると思う。

委員長：

万博の関係で宇治との関わり等があれば教えてほしい。

西村委員：

万博について、まず京都府の現状は、京阪奈学研推進機構これは京都府と大阪府、奈良県3県またがるところで、そこで京阪奈万博を予定しており、そこで企業のオープンファクトリーやテクニカルツアー等を考えている。

また、京都は今、食の京都という切り口で取り組んでいる。万博に合わせて、京都の食を世界に発信していこうと考えている。食の京都には宇治茶が入っている。

それ以外には、教育という観点で、修学旅行や教育旅行、視察旅行など、万博を契機に積極的取り組んでいくことを検討している。

神居委員：

恐らく委員が心配していることは、現実だと思っている。

大河ドラマの件、伊賀越えの後、NHKのディレクターを車で乗せて、田原のほうに来て、ここにいわゆる家康道があり、土塁があって、残っていると伝えた。

宇治の方は誰もこういうこまめなことをしてないと思う。光る君へは5月から京都市

内の撮影始まっている。宇治で大規模な撮影の計画はない。そういう中で、こまめなものも含めて考えていくべきだと思う。

万博について、現時点、夢の島会場では重要文化財や国宝とか、そういったものを展示出来ないが、公的な機関、いわゆる公開承認施設に対して、万博に合わせて展示できるようにしてほしいという動きがある。何が言いたいかというと、京都含めて、組み込む余地がまだあると思う。夢の島で出来ない文化的なことが大阪市内の、そういったところで準備が始まっていくということになれば、私たちも、まだまだ関わっていくことが出来、そういった中で宇治がどう関わっていくかとなると、源氏ミュージアムのことも含めて考えていくことは多くあるというふうに思う。

情報公開や共有をもっとするべき。こまめな連携ということが、今後必要になってくると思う。

クラフトビールの1万5000人、またはあがた祭り12万人の来場者数ということであったが、こういった実績とは別に、そのイベントの中の、苦情とかマイナス面はどのようなものがあつたのか教えてほしい。

事務局：

クラフトビールや県まつりのとき苦情は何っていない。

神居委員：

宇治の観光の魅力整理の中で必要なことっていうのが、トイレ、樹木、街路灯、清掃、というのが考えられる。イベントのとき、宇治で足りないマイナス面は、まさにこれ。京都大作戦でも、行くための車が人手不足でないため、50分かけて歩くが、途中のトイレは、コンビニ1か所だけ。

トイレ、樹木、街路灯、そして事後の清掃を含めて、人を呼ぶ以上は丁寧に整備していく必要があると思う。

片山委員：

数日の間に、紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトのロゴマークが京アニと提携されたという報道があつたが、とても画期的というか、もう前代未聞。京アニがこういう形で協力することは今までなかった。

宇治市の御担当者の方と京アニの信頼関係が、これを成立させたということで、大ファインプレーだと私は思っております。

JR京都駅のJR東海ツアーズの跡地に京アニショップが先日オープンした。多くのインバウンドの方が押し寄せている状態。すなわち、京アニは、インバウンドコンテンツという理解をしたほうがいい。ただ、この宇治市のプロジェクトの内容は、インバウンドと直接絡んでないような気がするので、もう少し意識した展開を考えたほうがよい。

ただ、紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトの中身については、決して悪くないと思う。歴史好きの方を、長い目で発掘するという意味合いでは非常にいい内容が多

いと思う。

ただ、入門講座の資料がアーカイブ化されてオープンにされていないように思える。後でもう一回見たり、自分なりに勉強して、理解していきたいところに扉が開いてないような気がする。ここは少し考えたほうがよいと思う。

この光る君への期間だけではなく、長い目で取組むのは良いと思う。

神居委員：

万博や光る君への後を見据えて行動するべき。

そのためには、密接な情報共有をしておきたいと思う。

委員長：

ありがとうございます。

事務局から補足の説明や意見はあるか。

源氏物語ミュージアム館長：

この超入門講座、連続講座ともに源氏物語ミュージアムで開催している講座である。

私としても何らかの形で資料を残したいというのは常に考えている。

入門講座も連続講座も、たくさんの方にお越しいただき、こうした講座を毎年、毎月、ひたすらやり続けている。

繰り返し宇治で行っているの、宇治に来て、宇治で話を聞いていただくのも一つの強みではないかなと思っている。まずは、繰り返し、宇治で開催しているということの一つの強みとし、また、新しい方法というのも模索していきたいと考えている。

藤原委員：

観光振興計画の進捗について3点ある。

まず1点目は、プレミアム化という点。委員のほうからも、今ベストぐらいの人数、流入状況という話もあったが、このアクションプランのプログラムを見ても、出来ることは全てやっておられるのかなと思っている。

たくさんの方が入ってくると、トイレの問題だったり、道路の問題であったり、色々なストレスがインフラにかかってくる。その中でも、地域に負担をかけない範囲で客単価を上げ、プレミアム化に力を入れ、強弱をつけることが必要である。

先ほどあった万博に合わせた要人へのアプローチもある。例えばシンガポール人は大体3週間ぐらいのバカンスを12月ぐらいにとり、平均予算100万円を使う。

瀬戸内では村上水軍の体験で大型客船が、3日間3食つきで1人55万円。

例えば、今、源氏物語の日本語コースがあれば、それを英語で学べるという1週間コースで、宿舎と地域における移動もついて、1週間で30万円や40万円でも、払う外国人の方はいると思う。日本語を学んで、宇治で日本文化を学び、日本のお茶を学び、55万円や60万円というような、プレミアム化というところに注目するのが良いと思う。

2点目が政策連携で、内部と外部との連携が必要ということであるが、今日も教育からインフラから農林まで、いろいろな課の方が来られている。このように今のプログラム

を全庁的に進めることが大切である。

もう一つは広域連携。先ほどあった水辺の自治体等で連携し役割分担をして、こちらに来た富裕層の人々にその地域に泊ってもらえるような体制をつくるのが大事かと思う。

関連することは、今、シンガポールの富裕層は農園レベルで物を買っている。和歌山のミカンではなくて有田のミカンなど、その地域ブランドを買っている。そういうところに訴求するような、物、生産物作りというのが、プレミアム化にもつながると思う。

最後に、大阪万博は2025年の4月から10月に開催されるので、この会議が大体1年に1回というふうに考えると、来年のこの会議では大阪万博に向けて、どういうことができるかという議論になると思う。フィルムコミッションも含めて、大阪万博に向けた議論が出来たらいいと思う。

四辻委員：

先ほど委員からも広域連携という話があった。

万博もそうであるが、市やDMOでやっている一つの目的も、1市町村だけでなく、エリアとして魅力を売っていくということもある。また、京都市も京都府の一部ということで、京都市の観光協会などともよく話をしている。

京都市内のインバウンドは今本当にすごい数である。歩いていても、外国人のほうが多い。アジアの方ではなく欧米の方が多いので、見るからに、外国人が増えているのを実感する。

京都市はオーバーツーリズムという言葉を嫌がるが、混雑が集中しているのが顕在化している。京都市は京都府と京都府域との連携について本気で話をしている。

大河ドラマは、今度は京都市内が多くのウェイトを占めることになる。テレビで紫式部が取上げられて京都市内に集まると思われるが、やはりその周辺、とても連携しやすい場所に宇治市はあるため、番組の制作のなどでも取上げられることが増えてくるのではないかと。私たちも平常時の京都市との周遊や、NHK大河ドラマを取上げられるような雑誌や番組のほうにPRをしていく。

ただ、これまでの経験からすると、NHKとの調整はとても時間と手間がかかる。

せっかく1年間ドラマをやるのに、ポスターが出来たのが半年後ではもったいない。

そういう点は、注意しながら、早めの準備が必要であると思う。

委員長：

本日はテーマが二つあるため、進捗状況については一旦この辺で区切り、次のテーマに移らせていただく。

最後また、全体を通して意見をいただきたいと思っている。

それでは、引き続き事務局より二つ目のワーキンググループについての報告をお願いしたい。

・ワーキンググループについての報告

事務局より資料5に基づき説明。

委員長：

事務局の説明について意見はあるか。

神居委員：

委員長より、女性の割合を多くしてはと言われていたが、どのくらいだったのか。

事務局：

昨年度のワーキングは27%が女性の方であった。

今年度のワーキングは今21名中5名が女性の方である。

9. その他

委員長：

本日の委員会全体に関して意見はあるか。

進捗状況にかかわらず、これからの宇治について、情報共有、あるいは、御意見を賜りたい。

脇委員：

計画にも出ていたが、小倉地区にもお茶屋さんが結構ある。

私も先日歩いてみたが、非常にいい町であり、中宇治とは違う魅力があると思っている。もちろん中宇治と小倉を結ぶことは大事であるが、一方で小倉だけで半日遊べるということも大事であると思う。

鉄道会社等の取組の中で今、JRと京阪だけでなく近鉄との連携もお願いしたい。

委員長：

ありがとうございます。

山仲委員：

「光る君へ」や万博はもう、来年、再来年の話である。

市や観光協会で即動かないといけない話ばかりである。

商工会議所とも情報共有をして、取組んでいく必要がある。

委員長：

ありがとうございます。

観光コンテンツ、具体的な商品化という、かなり短期的に、実現していかなければいけないという御意見かなと思う。

恐らくプロジェクトチームをつくって動かなければ難しい気がする。また、行政だけでも難しいと思うので、官民連携してつくっていくようなことが必要である。

中村委員：

一つ足りないなと思うのが、前後の情報の発信。宇治の情報発信は、非常に下手と感じる。アウトドアツーリズムなど、色々なところで色々なことをされていることをもっとPRし、色々な方に知っていただくというようなことが非常に大事。

もう一つは、この観光振興計画について、短期的な視点も大切であるが、10年後に我々の町がどうしていきたいのかという長期的な視点というものがとても大事になると思う。

宇治の伝統や文化が続いていかないと、観光に結びついていかず、この火が消えてしまうようなことでは駄目であると思う。ほかの地域との差別化という点でも、お茶があり、平等院があり、万福寺、興聖寺、宇治川、ダム、いろんなものがたくさんあるので、これを総合的に、どうプレミアム化し、良いものにしていくかというような、長期の視点に立っての計画というものが、今後ますます必要になってくると思う。

地域間競争はどんどん激しくなると思う。そういうところでの差別化というのを、これから先の計画の中に入れていただきたい。

当面、アウトドアとか、水辺のにぎわいについてもっとPRをするのが良いと思う。

大阪万博についてはぜひ、国のほうに働きかけていただき、伏見で止まるのではなく、昔、帆掛け船がどんどんと、次へ向かってきていたような、そういう風景をもう一度つくっていただきたい。

神居委員：

情報発信の中で、市民からの発信、市民からのSNS発信が少ないと思われる。

委員長：

京都府さんの観光計画は、地域市民との連携について謳われており、そのような視点は必要と思う。

西村委員：

京都府は観光入込客数を今までKPIに入れていたが、変更し、観光客の満足度や京都観光で地元の人々と交流した観光客の割合、あるいは住んでいる地域の観光資源が活用されているとも思う区民の割合というような指標にしている。

もう一方で、区域の観光消費額の単価を引き上げるということになっている。

2年ほど前の観光振興計画の会議で発言した記憶があるが、オーバーツーリズムの話が出たときに、観光人材を育成するだけでなく、地域の住民の方々のおもてなしの心の醸成が必要ではないかと思うと発言した。観光に来て、観光客が地元の人々とどう交流するか、それを受け入れる市民、府民の方々が、観光客とどう触れ合うかが大切。

例えばトイレを貸すことや道路の清掃という話にも地域の住民の方の協力が不可欠になってくる。

観光消費額の単価については、体験メニューを引き上げることによって宇治市でお金を使ってもらえるような形が必要になってくると思う。

酒井委員：

私も2年ほど前に発言したと思うが、4月5月のトビケラについて話した。
やはり自然のことで、これをやったら大丈夫といえることはなかなか無いとは思いますが、
すぐに答えが見つからなくても歩みを止めずに、しっかり向き合っただ対応をしていく
べきことかと思う。今後何か進捗があれば、また教えて欲しい。

事務局：

トビケラはなかなか根本的な対策がない中ではあるが、今年度はトビケラの対策の費用として予算を確保し、薬剤散布の回数を増やしている。
ただそれも、一時的なことになっているので、今後何ができるかを引き続き研究していく必要があると考えている。

委員長：

今日は本当にたくさんの貴重な御意見をいただくことができたと思う。
特に前半は万博を中心に、これから具体的アクションを起こしていくということで、情報の収集から実現化まで、時間ない中で、どこまでできるのか、さらにアフター万博を視野に置いて、どのようなことを成果として受け継いでいくのかという視点の御意見をたくさんいただいた。
また、いろんな観光のイベントを含めた情報の前後の取扱いをもう少し丁寧にしておくべきではないかといったようなことも、多くあった。
そのほか、たくさんの御意見をいただいたが、私が事務局席に座っていたら、そんなにたくさん出来ないぞということを思ってしまいそうですけれど、これをどのように効率的にやっていくのかということに知恵を出していかなければいけないのではないかなと思う。
以前の大阪にイギリスの観光の拠点が置かれたことがあった。
そのときにお話を聞いたところ、イギリスの国は観光の担当者が国で3人しかいませんと言われた。
全部アウトソーシング、あるいは外部との連携で全部処理している。指示書と仕様書と、お金さえ持っていたら、全部動くような仕組みになっていると言っていた。
評価も全部やっているということで、非常に厳しいジャッジをしながら進めている。
観光というのは多様な総力戦になってくる。効率的に運用していくのは、とても知恵が要ると思う。
また、行政の方の労働環境が問題になってきているので、短時間に効率よくやっていただかないと大変だと思う。何か、新しい改革というものが行政内部でも必要になってこないか、この成果に応えられないと思う。

次回はぜひ、万博やブランド化された宇治の商品化といったあたりにテーマを絞りながら、この場で意見交換できれば良いかなと思う。

ほかに意見ないようであれば、これにて宇治市観光振興計画推進委員会は閉会させて

いただきたいと思います。

10 . 閉会

- ・脇坂部長より挨拶